

I. 地域的周産期医療のシステム化に関する研究

分担研究報告書

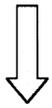
高知医科大学産婦人科

武 田 佳 彦

周産期医療の実効を挙げるためには、センターによる母子救急体制の一元的なシステム化が必要であることは論を待たない。特に母体搬送に関しては、その意義が強調されるが、一方において我国医療体系下における問題も多く必ずしも円滑な運用が普及していない。そこで実態調査を通じてその問題点を探り、具体的な母子救急の地域化に関する提言を行いたい。また、子宮内胎児発育遅延（IUGR）は児の子後に異常を来たす頻度が極めて高く、しかも胎児救急としての母体管理が必要な疾患群である。この原因究明と管理法の設定は周産期医学の重要な課題であり、スクリーニングを含む管理基準の設定を企図した。

本年度は総合研究の初年度にあたり、本研究の目的である研究課題に対する具体的提言をまとめるための資料収集段階として位置づけ、実態調査を中心に活動した。

各研究課題ともに問題点が明らかとなり、試案作製の基礎的評価を行うことが出来た。



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



周産期医療の実効を挙げるためには、センターによる母子救急体制の一元的なシステム化が必要であることは論を待たない。特に母体搬送に関しては、その意義が強調されるが、一方において我国医療体系下における問題も多く必ずしも円滑な運用が普及していない。そこで実態調査を通じてその問題点を探り、具体的な母子救急の地域化に関する提言を行いたい。また、子宮内胎児発育遅延(IUGR)は児の予後に異常を来たす頻度が極めて高く、しかも胎児救急としての母体管理が必要な疾患群である。この原因究明と管理法の設定は周産期医学の重要な課題であり、スクリーニングを含む管理基準の設定を企図した。

本年度は総合研究の初年度にあたり、本研究の目的である研究課題に対する具体的言をまとめるための資料収集段階として位置づけ、実態調査を中心に活動した。

各研究課題とも問題点が明らかとなり、試案作製の基礎的評価を行うことが出来た。